

年齢や性別に関係のない「パワーバリアレス社会」の実現を目指す

アクティブリンク株式会社 奈良県奈良市

パナソニック株式会社の社内ベンチャーとして2003年に設立されたアクティブリンク株式会社（代表取締役社長 藤本弘道氏）は、創業以来二足歩行タイプを中心にした「アシストスーツ」の技術開発を進めている。人間が作業をする際に必要とする力をサポートして、作業者の負担を軽減する技術をパワーアシストといい、「アシストスーツ」はパワーアシストの付いた機器の総称である。

現在、同社が展開する事業は以下の2つであるが、製品の開発が主な事業となるため、製造等は外部の企業や大学等と連携して行っている。

1つ目は「パワーローダー」という30～100kgf（重量キログラム）のアシスト力を持つ機器の実用化に向けた開発である。「パワーローダー」は、人が乗ったままでの歩行が可能で、手元のグリップで機器のアームを操作することで「つかむ」「はなす」といった作業ができる。大きな力が必要とされる災害救助や重い放射能防護服を着て作業を行う原子力発電所などでの活躍が期待される。

また、汎用化に向けて開発された、小型版の「パワーローダーライト」は試作品の開発が終わり、これをさらに簡素化した製品ができあがった。他社に先駆けて量産化の体制が整い、2015年度中の販売が予定されている。

2つ目は、30kgfまでのアシスト力を持つアシストスーツの商品化支援である。このスーツの用途は、工場、農業、物流、土木・建築など幅広く、荷物の積み込み積み下ろし作業やリハビリ対策、高齢者の農作業時などで威力を発揮する。

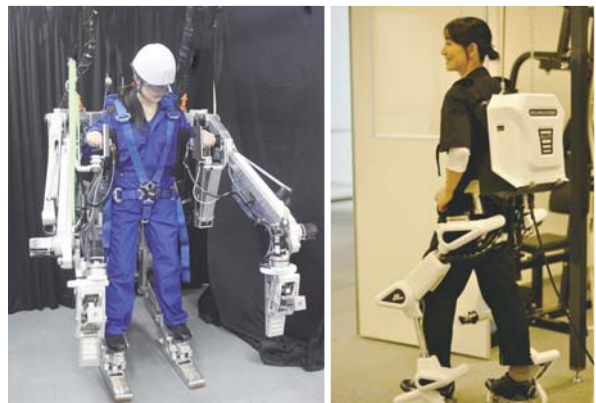
この事業では、株式会社クボタからの受託事業として開発協力した上腕保持具「ラクベスト」（農業用サポートスーツ）が既に商品化されている。「ラクベスト」は、腕を上げた状態で長時間作業する際に効果的であり、これまでに、ぶどう・

梨の受粉や摘果といった果実棚下での作業で使用されている。ユーザーからは、「作業効率がよくなった」など評判も上々であるという。

同社が関わる「アシストスーツ市場」は、将来の見通しは明るいものの、今は成長途上にある。このため、同社では技術開発にあたって、試作品を発表してその反応を探ることで社会の動向や顧客ニーズの把握に努めており、今回量産化に目処がついた製品の反響にも注目している。

今後の展開について藤本社長は、「これまで、アシストスーツの分野で顧客ニーズにマッチした技術や製品を開発してきたが、『パワーローダー』に一定の目処が付いた今、もう一段上のステップを考えている。これからも『力』という部分にこだわりを持ち、年齢性別に関係なく力仕事ができる『パワーバリアレス社会』の実現を目指していきたい」と抱負を語っている。

（丸尾尚史、島田清彦）



「パワーローダー」（左）と同小型版「パワーローダーライト」（右）



藤本弘道社長

アクティブリンク株式会社

〒631-0801 奈良県奈良市左京6丁目5-2
TEL: 0742-71-1878 FAX: 0742-71-1888
URL: <http://activelink.co.jp/>